

人間文化学部のカリキュラム・ポリシー

人間文化学部では、4年間の体系的な教育課程を編成するため、科目の大きな区分として〔学部共通基礎科目〕〔学科基礎科目〕〔専門基幹科目〕〔専門発展科目（保育教育学科）／専門科目（地域文化学科）〕の4つの科目区分を設け、以下のとおりカリキュラム・ポリシーを定める。

- ・〔学部共通基礎科目〕には、〔教養科目〕〔しまねの文化〕〔体育〕〔外国語〕の科目群を設ける。〔教養科目〕では、人間と文化、社会、自然のそれぞれの関わりについて基礎的な知識を身に付ける。〔しまねの文化〕では、地域における人々の暮らしや文化に対する理解を深め、地域共生の精神を育む。〔体育〕では健康に対する理解を深め、体力増進を図る。〔外国語〕では、英語に次ぐ第2外国語としてアジア地域の言語を修得する。
- ・〔学科基礎科目〕には、保育教育学科、地域文化学科の両学科に、〔ライフデザイン〕〔言語リテラシー〕〔情報リテラシー〕の科目群を設ける。〔ライフデザイン〕では、初年次教育並びにキャリア教育を行う。〔言語リテラシー〕では、英語の基礎的な運用能力を身に付ける。〔情報リテラシー〕では、コンピュータの知識と技術、並びに情報倫理について修得する。
- ・〔専門基幹科目〕〔専門発展科目（保育教育学科）／専門科目（地域文化学科）〕には、保育教育学科、地域文化学科の両学科の教育課程に応じた科目群をそれぞれ設け、人間と文化に関する広い視野と高い専門性を育成する。

保育教育学科のカリキュラム・ポリシー

- 1 科目区分〔学科基礎科目〕を設け、初年次教育及びキャリア形成を行う〔ライフデザイン〕科目群、保育教育職の基礎的リテラシーを養成する〔言語リテラシー〕科目群及び〔情報リテラシー〕科目群を配置する。
- 2 地域の課題を自ら探究する能力の育成を行うために、科目区分〔基幹研究プロジェクト〕を設け、アクティブラーニングによる地域活動科目や、課題意識に基づく自主的研究活動推進のための科目を配置する。
- 3 地域の人間と文化の魅力を、次世代を担う子どもたちに継承することができる表現力を育成するために、〔基幹研究プロジェクト〕の必修科目として「表現研究(児童文化)Ⅰ・Ⅱ」「言葉研究(読み聞かせ実践)」のアクティブラーニング科目を設け、〔専門基幹科目〕の指導法・演習等の基盤とする。
- 4 子どもの発達や学習過程についての高い専門性と考察力の育成を段階的に着実に行うために、専門科目を〔専門基幹科目〕と〔専門発展科目〕の2段階で編成し、さらに〔専門基幹科目〕の中に、科目区分〔教職の意義〕や〔教育の基礎理論〕〔福祉と養護の基礎理論〕等の基礎理論の科目群を必修科目として配置する。
- 5 集団での協同的実践力の育成を行うことを目的として、4年間の教育課程を通し、実習体験活動やグループ演習を重視した指導を推進する。